

2021年度（一社）日本形成外科学会

小児形成外科分野指導医認定試験

（お願い）

座席の指定はありません。

前方から順に着席してください。

試験時間 16:15 ~ 16:45

1. 頭位性斜頭について、正しい記載を2つ選べ。

- a) 頭位性斜頭とは、生後直後からの向き癖によっておこる頭蓋の変形を指す
- b) 頭位性斜頭と筋性斜頸に見られる頭蓋形態は似ている
- c) 頭位性斜頭と縫合癒合が原因である斜頭との鑑別は形態からは診断できない
- d) 頭位性斜頭を放置すると、精神運動発達障害をきたす
- e) 斜頭と異なり、頭位性斜頭の治療にヘルメット治療は有効でない

2. 正しい記載を1つ選べ。

- a) 口唇系組織は胎生12週ころに形成される
- b) 片側唇顎口蓋裂の発生頻度は左側に多い
- c) 唇裂・口蓋裂の発生率に人種差は特にない
- d) 両側唇裂は片側唇裂の発生頻度の約4倍である
- e) 口蓋裂単独の発生頻度は男女でほぼ同じである

3. 通常、耳介の先天異常を伴わない疾患を1つ選べ。

- a) Goldenhar 症候群
- b) Treacher Collins 症候群
- c) Robinシークエンス
- d) Hemifacial microsomia
- e) Antley-Bixler 症候群

4. 先天性頸部腫瘤について正しい記載を1つ選べ。

- a) 側頸嚢胞が最も頻度が高い
- b) 側頸嚢胞は胸鎖乳突筋前縁上に生じる
- c) 正中頸部嚢胞は第二鰓裂に由来する
- d) 無症状の頸部嚢胞では通院は不要である
- e) 頸部嚢胞から悪性腫瘍は発生しない

5. 手の先天異常について誤りを1つ選べ。

- a) 巨指症は示指、中指に多い
- b) 裂手症はBlauth分類による治療法の選択が有用である
- c) 屈指症は両側性で小指にみられることが多い
- d) 母指多指症のWassel分類は単純X線像による分類である
- e) Swanson分類は手の先天異常における発生学に基づく分類である

6. 次の中で正しい記載を一つ選べ。

- a) ポーランド症候群では大胸筋が欠損する
- b) 漏斗胸に対するラビッチ法は低侵襲な治療である
- c) 漏斗胸に対するナス法では変形肋軟骨を切除する
- d) 鳩胸の頻度は漏斗胸の80%程度と言われている
- e) 臍ヘルニアが自然治癒することは稀である

7. 後鼻孔閉鎖について誤りを1つ選べ。

- a) 両側性の場合には出生直後に気管内挿管を時に要する
- b) 出生7000から8000人に1人の頻度で発症する
- c) CHARGE症候群にしばしば合併する
- d) 後鼻孔が骨性または膜性に閉鎖され、多くの症例で骨の狭窄がある
- e) 治療においては開窓は容易で、再狭窄は少ない

8. 結節性硬化症においてよくみられる症状や検査結果について誤りを1つ選べ。

a) 鼻、鼻唇溝、頬に多発する脂腺腫

b) 腰仙骨部の結合組織母斑

c) 体幹、下肢の直径3センチまでの不完全色素脱失

d) 爪の周りの被角線維腫

e) 頭部CTでの結節状石灰沈着

9. 肥厚性癬痕の治療で誤りを1つ選べ。

- a) 放射線照射
- b) ステロイドの局注
- c) スポンジによる圧迫
- d) 手術による拘縮の解除
- e) ステロイド含有テープの貼付

10. 小児の指尖部切断に関する記載で正しい記載を1つ選べ。

- a) 切断指再接着術の適応は禁忌である
- b) 石川Subzone分類では評価できない
- c) Composite graftは生着率も患者家族の満足度も低く、適応はない
- d) 母指の指尖部損傷は指の指尖部損傷より少ない
- e) 骨端線損傷を避けるため、骨固定に鋼線固定は禁忌である

11. 小児の顔面外傷について、成人と比較した場合に誤りを1つ選べ。

- a) 体全体に占める頭部の割合が大きいため、外傷の割合が高い
- b) 口腔内の歯による下口唇の貫通創は成人に比して多い
- c) 時に軽微な外力でも顔面神経損傷をきたす
- d) 挫滅した組織のデブリードマンは多めに行うべきである
- e) 適切な治療を行えば、急性創傷が慢性創傷に陥ることは少ない